

平成26年度  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI  
(研究成果の社会還元・普及事業)  
実施報告書

HT26261 自然と共に生きるー焼畑と狩猟を通して「命」を考えようー



開催日：平成26年8月24日(日)

実施機関：宮崎公立大学(103大講義室・  
(実施場所) 福利厚生棟)

実施代表者：永松 敦  
(所属・職名) (人文学部・教授)

受講生：小学生13名

関連 URL：[http://www.miyazaki-mu.ac.jp/info/community/26\\_18.html](http://www.miyazaki-mu.ac.jp/info/community/26_18.html)

### 【実施内容】

#### 1. プログラムの目的

山村の焼畑と狩猟の学習を通して、人間と自然との関わりについて、子供たちに、「環境破壊」と「持続可能な賢明な自然利用」の差異を考えさせ、人間がどのように自然と向き合っていくべきかを考える機会を与えた。

また、山の生業として不可欠な狩猟について、動物の命を奪うことの意味、資源確保の方法などを、子供たちが直接、猟師の語りから聞き取ることで、日常の食事において多くの動物の命をいただいて、自らの生命維持につなげていることを真剣に考える機会を設けた。

#### 2. プログラムの実施に際し留意、工夫した点

##### (1) プログラムの変更について

当初の予定では、焼畑の現地に赴き、火入れを見学する予定であったが、台風のためやむなく中止し、日程を変更し大学において、映像、資料を用いて解説した。なお、西都市銀鏡地区から地元住民4名を招聘し、そば打ちを体験する機会を作ることで、参加者と山村住民との交流も図れたため、当初の目的を補完することができたと思う。

##### (2) 班分け

子供たちを3人又は4人の班に分けて、それぞれ大学生サポーターを2名ずつ配置し、初対面の子供たちが恥ずかしがらず意見交換を活発に行えるよう、昼食時や休憩時など、大学生が中心となり積極的にコミュニケーションをとらせた。

##### (3) 昼食の提供

昼食は、西都市銀鏡地区の地元住民との綿密な打ち合わせのもと、シカ肉、イノシシ肉、ドングリを使った豆腐など、普段の食卓にはのぼらない食材を使用した食事を提供した。慣れない食べ物に、箸が進まない子供もわずかにいたものの、山村に暮らす人々の食文化に触れさせることができたと思う。

##### (4) 映像等の使用

講義や猟師の話を聞く際には、映像や画像をできる限り多く使い、子供たちが退屈しないよう努めるとともに、焼畑や山村の暮らしがイメージしやすいように説明を行った。

##### (5) 実施記録の作成・送付

参加者が学んだ内容を、後日思い出してもらおうことと、保護者の方にどんな内容で実施したか知っていただくため、当日のプログラム内容をまとめた「実施記録」と「集合写真」を、全員に送付した。

### 3. 当日の様子



【講義①】の様子



昼食の様子



野獣肉・山菜を使った弁当



【実習①】そば打ちの様子



【講義②】の様子



【実習②】意見発表の様子



修了証の交付

### 4. 当日のスケジュール

- 10:00～10:30 受付
- 10:30～11:00 開講式(①開講のあいさつ、②科研費の説明、③サポート学生の紹介)
- 11:00～11:40 【講義①】「焼畑と狩猟(代表者)」
- 11:40～11:50 移動
- 11:50～12:50 昼食(猪肉、鹿肉等を使用した弁当の解説)
- 12:50～14:00 【実習①】そば打ち体験
- 14:00～14:20 休憩
- 14:20～15:00 【講義②】「猟師のお話を聞こう(現役猟師と実施代表者の対談)」
- 15:00～15:20 DVD鑑賞(山村に生きる人々の生活の様子)
- 15:20～16:00 【実習②】命について考えて意見を発表しよう
- 16:00～16:20 閉講式(①今日を振り返って、②修了証交付、③閉講のあいさつ)

### 5. 事務局との協力体制

代表者は、事務担当者と密に連絡をとり、連携しながら準備を進めた。特に、本学全体でも本事業への応募は初めてであったことから、実施内容について工夫すべき点や留意する点などを積極的に議論した。

また、当日の運営補助、司会進行、受講者へのフォローのほか、委託費の執行管理、日本学術振興会との連絡調整、近隣小学校への広報活動、アルバイト学生への指導などの協力を得ることができた。

### 6. 広報活動

- (1)本学ホームページへの募集案内掲載
- (2)宮崎市教育委員会への協力要請

- (3)宮崎市内小学校への募集チラシ配布(48校・小学5、6年生人数分)
- (4)宮崎市広報への掲載
- (5)小学生対象イベント告知サイトへの掲載
- (6)報道各社への投げ込み

## 7. 安全配慮

- (1)受講者の安全配慮のため、参加者を4グループ(1グループ3~4名)に分け、各グループに2名の学生を配置し、事故等が起きないように目が行き届くようにした。
- (2)事前に参加者全員がレクリエーション保険に加入した。
- (3)昼食時に野獣肉や山菜、そばを提供することから、事前に参加者のアレルギー有無の確認を行った。

## 8. 今後の発展性、課題

焼畑という一見、環境破壊と見なされがちな行為が、実際には、人為的に自然に働きかけをすることによって環境維持が図られ、賢明な資源利用を促進させるという、その知識と事実を、我々研究者が若い世代に伝えていく必要性を痛感する。今後は、焼畑に限らず、野焼きや森の間伐、害獣駆除、獣肉利用、資源確保の在り方について、系統だてて継続的に本講座を推進することが、これからの日本の自然環境と精神的文化を守るためにも重要だと考えている。特に、狩猟を通した「命を考える教育」は、現代社会においては必要不可欠であり、日々の食事に対する感謝の気持ちを抱くことの重要性を教える機会をさらに広げるべきであろう。今回、台風の影響で現地開催を断念したが、今後は地元と入念な打ち合わせを行い、予備日を数回設けるなどして、現地での学習を必ず行えるように図りたい。

本講座を定例化させることにより、地元に対しては、焼畑を伝承するよい機会を与えることにもなり、日本の貴重な民俗文化を継承、あるいは復活させていくという可能性をも含んでいる。現地での講座は、子供たちに対しては、都会では体験できない教育的効果を与え、地元に対しては、民俗文化の保存と継承を促進させるという双方向のメリットを生じさせると言えよう。

### 【実施分担者】

宮元 章次 宮崎公立大学 地域研究センター長(人文学部・教授)  
辻 利則 宮崎公立大学 人文学部・教授

【実施協力者】 14 名

### 【事務担当者】

上園 祥介 企画総務課・企画係